

「花蔵の乱」探訪コース



天王山方面
義元派の陣地があったとの説あり



二の丸跡

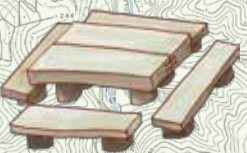


本丸跡



花倉城(別称:葉梨城)

瀬戸谷温泉ゆらく



烏帽子形山山頂



恵探終焉の地

高山寺

バス案内(行き)
藤枝駅前⇒中田(葉梨線)
7:33発 7:53着 360円

バス案内(帰り)
瀬戸谷小学校前⇒藤枝駅前(藤枝駅ゆらく線)
15:39発 16:03着 400円

瀬戸谷温泉ゆらく前⇒藤枝駅前(藤枝駅ゆらく線)
17:35発 18:03着 400円

①～⑬…立ち寄りポイント
WC…トイレ

バス乗車区間
ハイキング区間(14km)

13 藤枝駅 18:03 WC ゴール	12 瀬戸谷温泉ゆらく (入浴・休憩120分) 17:35 ※最終便	11 恵探終焉の地 15:03	10 高山寺 14:08 WC	9 分岐烏帽子形山 12:58	8 景色がいい広場 (昼食60分) 12:03	7 花倉城跡看板 10:23	6 茶畑 9:23	5 山道入口看板 9:13	4 徧照寺 8:53	3 長慶寺 8:23	2 中田バス停 葉梨公民館 7:53 WC	1 藤枝駅 7:33 WC スタート
---------------------------------	--	-----------------------	--------------------------	-----------------------	----------------------------------	----------------------	-----------------	---------------------	------------------	------------------	-----------------------------------	--------------------------------

- ガイドブックなどを参考に、目的地、歩くコース、タイムスケジュールなど、事前に計画をきちんと立てましょう。
- ガイドブックに書かれている時間は、平均的な目安です。グループメンバーは参加する人の経験などを考慮して、無理のないコースタイムになるよう注意しましょう。
- 天候の変化や、参加者の体調などによっては、計画の変更や緊急時の退却ルートが必要なこともあります。
- 山の天気は変わりやすいので、空の様子や気温の変化などに注意しながら行動しましょう。
- 必要と思われる量より、多めの食糧や水分を用意しましょう。
- 暗くなる前に帰れる計画を立てましょう。
- 歩く前にスリッパ運動をし、靴ひもは登るときは緩め、下り始めるときはきっちり締めるのがオススメ。

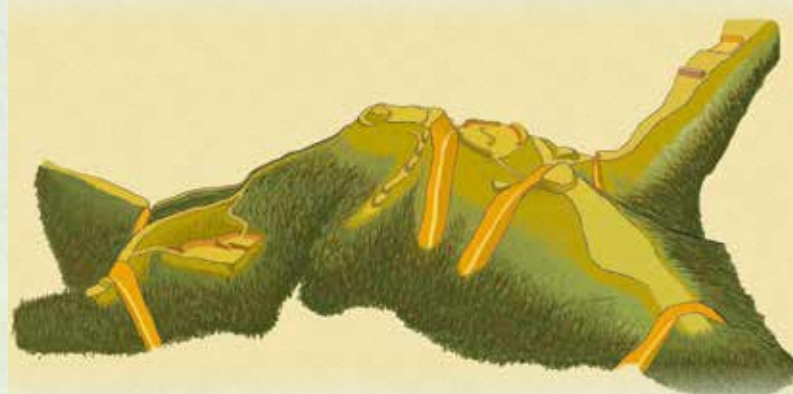
- 【食糧】 □ お弁当 (いつでも食べられる「おにぎり」がオススメ)
 □ 飲み物 (夏は飲用+予備で1L以上)
 □ 非常食 (あめ、チョコレートなど)
- 【服装】 □ 帽子 (日除け・蜘蛛の巣除け)
 □ 長袖・長ズボンの衣服 (長さ調節できるもの)
 □ 靴 (底が厚くてクッション性がきくひも靴)
 □ リュックサック (両手を自由にできるように)
 □ 手袋 (転倒時に手指を守る)
 □ 替えの肌着・靴下など (汗をかいた時に着替える)
- 【装備】 □ 地図 □ タオル □ 携帯電話
 □ ライフジャケット・トレイルロープ □ 新聞紙
 □ 懐中電灯・ヘッドランプ □ 薬 □ レジャーシート
 □ ガムテープ □ ストック □ 手が空く雨具

楽しく、安全に、歩くための準備

バス&ハイキングマップ③ 「花蔵の乱」探訪コース

～今川家の家督争い 玄広恵探終焉の地を訪ねる～

長慶寺・徧照寺～花倉城～恵探終焉の地



花倉城の鳥瞰図

「花蔵の乱」は、戦国時代の天文5年(1536)、今川義元とその兄・玄広恵探(げんこうえたん・今川良真)との間で起きた今川家の家督争いです。玄広恵探が花蔵殿と呼ばれていたことから「花蔵の乱」といわれています。その舞台となった「花倉城(別称・葉梨城)跡」付近では、近年、案内看板が設置されたり、地域の方により花倉城跡から瀬戸谷方面に抜ける山道が整備されたりして、ハイキングしやすくなっています。ぜひ、路線バスを使って訪ねてみてはいかがでしょうか。

『花蔵の乱』概要

天文5年(1536年)3月17日、今川家7代・氏親の長男である氏輝は24歳の若さで急死し、同日に次男の彦五郎も亡くなるという一大事は今川家中を二分させていく。

氏輝には子供がおらず、4人いる弟のうちの2人、三男の良真=玄広恵探(花蔵遍照光寺住)、五男の義元=梅岳承芳(富士善徳寺住)の間で跡目を争うことになる。

この2人は異腹兄弟で、玄広恵探は梅岳承芳より1歳年長ではあるが側室(福島左衛門尉)の子であり、一方の梅岳承芳は正室・寿桂尼(中御門宣胤の女)の子であった。この側室腹、正室腹の違いが相続権を決定づけるのだが、氏親の代からの重臣であった福島氏は、この機に恵探を担ぎ上げ弱体化した一族の復権を狙った。

ところが、今川譜代の有力家臣は義元派に与しており、また政治・軍事・外交の多方面に優れた臨済宗の高僧・太原崇孚雪斎が義元側にいたことにより、福島氏を中心とした恵探派は徐々に劣勢に追い込まれる。そして遂に、恵探は花蔵の遍照光寺背後の砦や葉梨城、高草山中腹の方上城など山西(高草山から西の地域)に戦陣をしき、義元派の攻勢に備えることとなる。

天文5年6月10日、恵探派の方上城が落とされ葉梨城も猛撃を受けると、立て籠もっていた恵探は唯一の尾根伝いに瀬戸谷高山寺に逃れるが、義元派の追撃に耐えられず、普門庵を最期の地として、わずかな臣従とともに自刃する。

氏輝の死去から3ヵ月、玄広恵探、弱冠19歳の命運は儚くも尽きてしまう。

バス&ハイキングマップ③

「花蔵の乱」探訪コース

～玄広恵探 終焉の地を訪ねる～

長慶寺・徧照寺～花倉城～恵探終焉の地

お問い合わせ先

藤枝市公共交通政策室 TEL 054-643-3111

藤 枝 市

